

## 「 花に嵐の弥生の空よ 」

「 農業新聞 野良ばなし 」

16.3.18

弥生の声を聞くと空も気も朗らかになる。冬の北風に代わって、明るい日差しの中を農作物の芽生えや生育を促す暖かい南風が吹き渡る。

南風は、太平洋上の高気圧から日本海の低気圧に向かって吹く。時にはフェーン現象を伴い、北陸や越後地方の空気の乾燥と異常高温をもたらす。

この強風と乾燥で、春は山火事が多くなる季節。暮らしに身近な例は、道路の埃が舞い上がりやすい。かつて、札幌は「ばふん風」が有名だった。

気象庁の風力階級表によると、砂埃が立ち始める風速は5メートル。時速に換算すると18キロ。この速度は、私たちが深呼吸で吐き出す息のスピードとほぼ同じ。咳をした時の呼気の速さは時速200キロにもなり、喘息で咳込むと息苦しくなり体力を消耗する。

昔から叶えられない願いの喩えに、「月にむら雲、花に嵐、思うに別れ、思わぬに添う」などがある。この中で「花に嵐」を気象の面から検証した。

最大風速10メートル以上の強風日数を調べた。北日本と日本海側地方は、真冬の一月が多く、太平洋側の東北地方から九州各地では、早春の三月が最多。今年は桜の開花が早まりそうだが、まさしく花に嵐の季節が近づいてきた。

真冬は北西の季節風による強風で、春に一変。南海上の高気圧から日本海の発達した低気圧に吹込む強風のため。春は、両勢力が激しくぶつかる気圧配置への変化が速い。よって南と北の強風のダブルパンチを受けることとなる。

この時期の農作業のアドバイス。ビニールハウスやフレーム作りなどの作業時は、あらゆる方向からの風対策に抜かりないようにしたい。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )